

臨床におけるニーズとウイルス-生体分子相互作用の最新知見

Clinical needs and the latest findings on virus-receptor interactions

京府医大¹, °渡邊洋平¹

KPUM¹, °Yohei Watanabe¹

E-mail: nabe@koto.kpu-m.ac.jp

ウイルス感染症は、感染者内で増殖したウイルスが他者へ次々に伝播される特性があるために感染者の治療と社会における感染制御の早期実現には迅速なウイルス検出が肝要となる。一般的なウイルス検出法として PCR 法やイムノクロマトを用いた迅速診断法などが使用されているが、これらの既存法には利点と欠点が存在しており、状況に応じて適切な検出法を使い分ける必要がある。このような状況にあって、これまでとは異なる原理に基づく新しいウイルスセンシングの開発が臨床で求められている。

私たちの研究グループは、新興ウイルス-レセプター分子間の相互作用とそのパンデミック過程における変化を明らかにしてきた[1]。また私たちが所属する京都府立医科大学は、地域中核病院である京都府立医科大学附属病院を敷設しており、所属研究室は新型コロナウイルス感染の院内診断をサポートする立場にある。これらの経験を踏まえて、今回は新型コロナウイルス感染症を例として、臨床で求められているウイルスセンシングのニーズを紹介すると共に、私たちがこれまでに明らかにした新型コロナウイルス-レセプター分子相互作用に関する最新知見を紹介する機会としたい。

[1]例えば、Isobe A and Arai Y *et al.*, Communications Biology (2022)

謝辞：紹介する研究の一部は JST 未来社会創造事業の支援を受けた。

